



## 廃棄物処理特集号に寄せて

### Foreword

取締役 佐倉 武久  
技術企画本部長 Takehisa Sakura

現代社会において、産業廃棄物、都市廃棄物あるいは農村の廃棄物の処理は、資源再利用、エネルギーへの転換などの見地からも、非常に大きな意味を有している。この間にあって、当社は環境関連として、過去十数年来、特に上下水道関係の施設と都市ごみ焼却炉の計装制御分野を数多く手がけてきた。また、近年では制御関係も、当社の得意とする高度のソフトウェアを必要とするコンピュータ制御、総合管理技術が中心となってきている。

端末分析機器に関しても、例えば微量の排出物質の管理分析という観点から、焼却炉の排煙中の有害物質の分析、あるいは最近多くなってきている放射性物質取扱施設の放射線管理など、当社の最も得意とする計装制御分野において、多くの実績を上げてきている。

更に最近では、真空ごみパイプ輸送の制御分野をも手がけ、顧客から好評を博している。

このようにして、長年にわたって廃棄物処理分野に関連した計装制御技術を手がけてきた経験を基に、数年前から汚泥の冷凍融解脱水装置(FSS)を製品化し、特に上水道関係の大形施設では、数多くの実績を上げ、更に小形のパッケージタイプも完成し、この分野では業界一の実績を上げている。

また、都市ごみの関連では、数年前から不燃ごみの処理プラントを手がけ始め、クリーン・

ジャパン・センターの家電品リサイクルセンターを初めとして、特長あるアルミニウム選別機を軸とした不燃物資源再利用プラントは、省資源・省エネルギーのムードとともに、極めて好評である。

一方、厨芥ごみ処理の特殊分野として、多量の厨芥の排出される所に適した厨芥処理システムは、特長のある脱水機により、急速に需要を拡大しつつある。

更にコンポストの分野においても、大形の鶏ふん処理、小形の牛ふん処理に関して実績を上げつつあり、今後の伸びが期待されている。この分野では、当社の発酵技術を軸に、都市ごみコンポスト化装置の受注にも成功し、更に下水汚泥分野においても、新しい展開が期待されている。

特殊な分野では、小形な装置ながら、RI実験動物処理装置は、顧客の御要望にマッチして、納入に追われている。

当社としては、かくも広範囲な分野において、固形廃棄物の適正処理、または資源再利用という関連において仕事を行っている責任を痛感するとともに、今後とも更に時代の要求にマッチした新しい処理技術の開発、製品化により、社会に貢献したいと考えている。顧客各社の御指導と御愛用を期待する次第である。



\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。